

家族療法

《担当者名》奥田 かおり k-okuda@hoku-iryu-u.ac.jp

【概要】

家族支援に使える家族療法について学ぶ。家族療法の歴史的発展と主要な認識論について探究しこの分野で採用されている様々な方法論（ナラティブセラピー、カップルカウンセリング、オープンダイアログ、当事者研究）の入門的な比較と検討をする。家族療法の現在の傾向や問題点などについても事例を使いながら学ぶ。

【学修目標】

- ・家族療法の基本的な認識論（システム理論）を学び、家族支援に応用できる。
- ・夫婦・家族が直面する発達の変遷と日常生活における病状・危機について学ぶ。
- ・夫婦や家族カウンセリングに共通する問題（@：不倫、虐待、離婚、家庭内暴力）とその治療法を学ぶ。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	授業内容、評価の方法についての説明。	奥田
2	家族療法とは	家族療法の起源・歴史的背景を学ぶ。	奥田
3	家族療法 概論	第一世代家族療法、第二世代家族療法について理解する。	奥田
4	家族療法 認識論	システム理論、円環的因果論について理解する。	奥田
5	家族療法 認識論	社会構成主義について理解する。	奥田
6	ファミリーセラピストの臨床的態度	ファミリーセラピストの臨床的態度を理解する。ラポール形成、ジョイニング（関係づくり、参加）について理解する。	奥田
7	ファミリーセラピストの臨床的態度	構造派家族療法の考え方を理解する。	奥田
8	家族療法 方法論	家族療法の中で用いられる技法について学ぶ。 ・リフレーミング ・エンアクトメント	奥田
9	家族療法 方法論	家族療法の中で用いられる技法について学ぶ。 ・ロールリバース ・チームアプローチ	奥田
10	ソリューション・フォーカスタプローチ	第二世代家族療法と呼ばれる中の解決志向短期セラピーについて理解を深める。	奥田
11	カップルカウンセリング	夫婦関係の心理について理解をする。カップルカウンセリングの実際について事例を使ってカウンセリングスキルについて学ぶ。	奥田
12	ナラティブアプローチ	ナラティブセラピーの歴史的背景、発展について理解する。ドミナントストーリー、外在化、オルタナティブストーリーについて理解をする。	奥田
13	ナラティブアプローチ	ダイアロジカルアプローチ、当事者研究に関する発展の背景を学ぶ。リフレクティングについて体験的に学ぶ。	奥田
14	家族療法の実際	臨床の場で家族と関わる支援者の経験を聴き、家族療法の課題について考える。	阿部 幸弘（特別講師） 奥田
15	講義の振り返りとまとめ	授業の中で紹介した家族療法のセラピストとしてのマインド、姿勢について振り返る。	奥田

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

参加態度 40% レポート 60%

【教科書】

はじめての家族療法

【学修の準備】

- ・各授業ごとに割り当てられるテキストの章を事前に読むこと。(2時間)
- ・復習として授業後は教科書や配布レジュメ等を用いて要点整理を行い、分からない点については次回の授業までに自分で調べるもしくは担当教員に確認すること(2時間)

学習課題はGoogleClassroomを利用して提示する。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2 福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP3 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

【実務経験】

ソーシャルワーカー

【実務経験を活かした教育内容】

社会福祉施設(母子生活支援施設)、精神保健福祉領域(医療機関)などでの実務経験を活かしアクティブラーニングスタイルで実践的な教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している